



日本糖尿病協会公認
マスコットキャラクター
「マールくん」

公益社団法人 日本糖尿病協会
REPORT 2016
～あなたが主役です～

CONTENTS

TOP MESSAGE	1
日本糖尿病協会の活動について	2
日本糖尿病協会ならではの特長	3
キーワードで見る 2016 年	4
活動報告	12
日本糖尿病協会と連携する諸団体	16
日本全国に広がるネットワーク	18
日本糖尿病協会の会員	20
2017年度 日本糖尿病協会賞受賞者	22
日本糖尿病協会 Information	23

TOP MESSAGE



日頃より日本糖尿病協会の活動にご理解とご支援を賜り、まことにありがとうございます。
日本糖尿病協会は、糖尿病啓発を行う公益社団法人として、日本の糖尿病対策に日々まい進しております。このほど、2016年度の活動をまとめた事業記録を作成いたしました。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2016年度を振り返るとき、まず4月14日に発生した熊本地震により生活の再建途上におられる皆さまに思いを致し、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年の我が国の糖尿病対策は、行政と医療者が一体となって、人工透析の原因疾患第1位である糖尿病腎症の増加に歯止めをかける「糖尿病性腎症重症化予防」の取組みで幕を開けました。これを受けて、日本糖尿病協会は、糖尿病の合併症予防の啓発活動に注力するとともに、重症化予防に関する地域連携で活用される「糖尿病連携手帳」の発行でも、この取組みに貢献いたしました。医療機関のみならず、市町村の保健指導の現場で糖尿病連携手帳の活用が広がった結果、年間の発行部数は約185万部と、過去最高を記録しました。

近年、日本糖尿病協会では、患者さんはもとより、糖尿病診療に従事する医療者の入会が急増しています。2016年度は、会員における患者さんと医療者の割合が1：1となりました。これは、「糖尿病医療の向上を通じて、日本の糖尿病患者さんに良質な医療を提供する」という目標を掲げ、療養支援の現場で活用できる教育資材の開発とその普及、療養指導者の育成などに注力してきたことが、医療者の方々に浸透した結果と考えております。

日本糖尿病協会は、社会の変化に柔軟に対応しながら、その時々求められる活動を展開しております。2016年度事業も、子どもから高齢者まで、糖尿病予防と患者さんのQOL向上のために、現在の日本の糖尿病対策として必要とされているものばかりです。

今後も日本糖尿病協会の活動にご注目いただき、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年5月
公益社団法人日本糖尿病協会 理事長

清野 裕

関西電力病院 総長
関西電力医学研究所 所長
京都大学 名誉教授
アジア糖尿病学会 理事長
日本病態栄養学会 理事長

日本糖尿病協会の活動について

日本糖尿病協会のステークホルダーは、患者さんはもとより、患者さんを支援する医療者、自治体、企業、市民など多岐に渡ります。そうした方々に向けて、以下の4つの目標を持って活動しています。

1 糖尿病の療養や予防について正しい知識を広めます。

- 糖尿病の発症予防
- 重症化や合併症の予防
- 医療スタッフへの情報発信／資格の整備
- 糖尿病治療の質の確保

など

普及啓発

2 患者さんやご家族など糖尿病と向き合う方々を支えます。

- 患者さん同士の交流の場
- 小児患者対象のキャンプ
- 療養に役立つグッズの制作・発行

など

療養支援



3 よりよい医療を提供するための基礎づくりを行います。

- 糖尿病治療薬の市販後調査
- 患者さんや医療関係者へのアンケート調査

など

調査研究

4 日本だけにとどまらず、世界規模で糖尿病対策に取り組みます。

- 世界各国の学・協会との協調
- 国際糖尿病連合の一員としての活動
- アジア地域の糖尿病足病変抑制事業

など

国際交流

日本糖尿病協会ならではの特長

日本糖尿病協会は、患者さんと医療者、それに企業や健康に関心の高い市民が連携して、糖尿病撲滅を目指す団体です。医療者も医師・歯科医師をはじめ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など幅広い職種が参加し、患者さんに良質な医療を提供するための取組みを行なっています。また患者さんやそのご家族が暮らす地域や職場にも呼びかけ、糖尿病の正しい知識と予防に関する啓発を実施しています。



日本糖尿病協会が発行する「療養グッズ」

日本糖尿病協会では、糖尿病関連企業の協賛により下記の療養グッズを発行。医療施設などを通じて無料で配布しています。



糖尿病連携手帳

検査値や治療内容、合併症の検査所見などを記録して携帯できる、自己管理のための手帳です。



自己管理ノート

血糖測定結果を1冊で1年分記録できるノート。複写式なので複写部分を主治医に渡すことができ便利です。



糖尿病患者用IDカード
(緊急連絡用カード)

低血糖や交通事故などの緊急時に、周囲に糖尿病であることを知らせ、適切な処置を促します。とくに薬物療法をされている方は、常に身につけていただきたいカードです。



英文カード

海外旅行などで役立つ英文カード。表紙には糖尿病患者であることが5か国語で書かれ、中面には治療内容や合併症の状況などが英語で記入できます。

キーワードで見る2016年

ひとりでも多くの笑顔と出会うために、 笑顔の輪を広げるために

日本糖尿病協会では、一般の方々への糖尿病認知促進活動、糖尿病を持つ患者さん・ご家族・予備群の方々への正しい知識の提供と啓発、各種糖尿病調査研究、療養指導者の育成支援等、年間計画に基づき様々な活動を行っています。

ここでは、「結ぶ」「学ぶ」「広げる」「支える」「育てる」「報せる」の6つのキーワードを手がかりに、私たち日本糖尿病協会の活動の数々をご紹介します。



結ぶ

糖尿病に関わる人と人とを
結びつける取り組みを
行なっています。

要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会

日本人の約4人に1人が後期高齢者となる2025年。超高齢社会の到来を見据えて、医療と介護の連携が急務です。日本糖尿病協会は、日本介護支援専門員協会と協働して、4年前から高齢の糖尿病患者さんを支援するケアマネジャーに対する教育事業を実施しています。地域包括ケアシステムを担う医療者とケアマネジャーをつなぐ体験型勉強会を、2016年は6ヶ所で開催し、300人が参加しました。また、勉強会で使用する糖尿病テキストも作成。糖尿病患者さんのケアプラン作成に必須の知識がコンパクトにまとめられて好評です。



糖尿病性腎症重症化予防連携協定

3月24日、厚生労働省と日本医師会、日本糖尿病対策推進会議の三者により、糖尿病性腎症の重症化予防に関する連携協定の締結式が行われ、糖尿病対策推進会議副会長の清野裕理事長も締結書にサインしました。糖尿病腎症は、糖尿病の三大合併症のひとつで、人工透析に至る原因の1位となっています。糖尿病腎症の重症化を予防するために、かかりつけ医と専門医の連携を強化し、自治体とも連携する体制作りを全国レベルで行うことになりました。日本糖尿病協会も、重症化予防の保健指導に取り組む各地の保健師と連携して、啓発に取り組んでいます。



「第3回チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト」

糖尿病なんて私には関係ない・・・。そんな若い世代に関心を持ってもらうため、日本糖尿病協会は、栄養を学ぶ学生を対象とするレシピコンテストを主催しています。応募者は年々増加し、第3回の2016年は61の大学・専門学校から331レシピの応募がありました。

書類選考を勝ち抜いた11校12チームがレシピ再現の実技審査と実食審査に臨みましたが、今回はレベルが高く、12チームすべてが入賞となりました。入賞チームは地元の新聞で紹介されるなど関心も上々で、学生のパワーが糖尿病食療法の啓発に役立ってくれました。



CDE ネットワーク

Certified Diabetes Educator = 糖尿病療養指導士。幅広い糖尿病治療の知識を持ち、患者さんを支援する医療スタッフです。今、地域密着型で活動する糖尿病療養指導士 (CDEL) を育成する活動が全国で盛んです。日本糖尿病協会は、日本全体の療養支援を底上げしたい、との思いから、各地のCDEL 養成団体のゆるやかな連携を目指すCDE ネットワークを作りました。活動補助金の支出や試験問題の提供などを行った結果、ほぼすべての都道府県にCDEL 養成団体が設立され、約20,000人のCDEL が誕生しました。



「さかえ」DM Ensemble

糖尿病とともに生きる人生には、いつも糖尿病の知識を最新版に更新しておくことが欠かせません。日本糖尿病協会は、協会誌「糖尿病ライフさかえ」(月刊)を無償で会員に届けています。注目される最新の医療情報や食事・運動療法のアイデアなどが患者さん向けにわかりやすく掲載されており、この雑誌を読むために日本糖尿病協会に入会する方も沢山おられます。また、医療のプロフェッショナル向けに「糖尿病療養指導のためのDM Ensemble」(季刊)も発行しており、医師・歯科医師を中心に読者が拡大しています。



学ぶ

さまざまな媒体や学術集会を通して、糖尿病に対する理解を深める活動をしています。

糖尿病カンパセーション・マップ™

聞く、読む、話す。知識が最も定着するのは、話すことです。日本糖尿病協会は、6年前から、会話を通して糖尿病を学ぶ「糖尿病カンパセーション・マップ」の普及に力を入れています。患者さんやご家族がグループになり、糖尿病治療のトピックを比喩的に描いた絵を見ながら互いの経験や想いを話し聞くことを通じて、

糖尿病について学ぶツールです。2016年は、グループのファシリテーターを務める医療者のトレーニングを18回実施し、約500人が受講しました。アクティブラーニングが脚光を浴びる中、療養支援の新しい形として人気を集めています。



運動療法、フットケアDVD

観て、聞いて、体を動かす。この三拍子が揃った糖尿病学習DVDシリーズを、大正富山医薬品㈱の協力を得て、医療機関に向けて現在好評配布中です。糖尿病だった(かもしれない)織田信長が現代にタイムスリップして、21世紀の糖尿病と運動療法やフットケアを学ぶ、という構成で、クイズあり、解説あり、動画と一緒に体を動かすコーナーありと盛りだくさんな内容です。糖尿病教室での使用や医療施設の待合室で患者さんが視聴する形を想定しています。



第4回日本糖尿病療養指導学術集会

7月23~24日、祇園祭の後祭で賑わう京都に、もう一つ熱気に包まれた場所がありました。国立京都国際会館で開催された日本糖尿病療養指導学術集会です。(南條輝志男会長 テーマ「チーム力アップ! 自分にできること 自分にしかできないこと」)参加者は年々増加し、2016年は糖尿病療養指導に携わる医療者1,402人が参加しました。この学術集会が糖尿病チーム医療に関わるための情報交換の場として定着してきたことを踏まえ、療養指導のコンセンサスを日本中の医療現場で共有することを目指し、「日本糖尿病療養指導学術集会」に名称変更したことが特筆されます。



療養指導者学習DVD「チームで考える!療養指導のポイント」

今、糖尿病診療の現場では「指導から支援へ」という流れが起きています。患者さんを療養支援のチームの一員としてとらえ、自ら糖尿病治療に向かう姿勢をサポートするというものです。一方通行の指導を、患者さんの気持ちを汲んだ支援に転換するには何が必要なのか。それをチームで考える医療者向けのDVDシリーズをアステラス製薬㈱の協力を得て制作しています。2016年は、「食事療法・運動療法編」「薬物療法編」をリリースしました。



啓発・防災資料を自由にダウンロード

日本糖尿病協会のホームページには、糖尿病の患者さんや医療者に役立つ資料がたくさんあることをご存知ですか?治療中断防止を訴える冊子「糖尿病の治療を放置した働き盛りの今」、災害に備えて持っておきたい「災害時ハンドブック」「災害時サポートマニュアル」、インスリン治療を行う方向けの「インスリン自己注射ガイド」「インスリン製剤一覧」など、どなたでもすべて無償でダウンロードすることができます。



HbA1c 認知向上運動

糖尿病の治療でHbA1cの数値は重要な指標です。この検査値を身近に感じてもらうイベントとして、5月21日、京都市内で「HbA1c認知向上運動」を実施しました。HbA1cや血圧・体脂肪測定のほか、女優の藤山直美さんと清野理事長、第59回日本糖尿病学会年次学術集会会長の稲垣暢也先生との鼎談、糖尿病クイズなども設定。参加者は楽しみながら健康意識を高めました。



糖尿病連携手帳



今や、糖尿病医療の現場で必携のツールとなった糖尿病連携手帳。2016年は、この流れに拍車がかかりました。厚生労働省が主導する糖尿病性腎症の重症化予防の取組みにおいて、保健師による住民の保健指導と医療をつなぐためのかけ橋として、糖尿病連携手帳の活用が奨励されたのです。これにより、従来は医療機関や薬局でのみ配布されていた連携手帳が、市町村の保健センターからも患者さんに配布されるようになりました。すでに257の市町村で約27,000冊の連携手帳が腎症の重症化予防に役立てられています。糖尿病の地域連携において、すでに連携手帳は事実上のスタンダードと言えます。

世界糖尿病デー・ブルーライトアップ

国連で「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議(UNR61/225)」が採択されて10年。2016年は世界糖尿病デー(WDD)10周年の節目の年でもありました。著明な建造物を青い光で照らすブルーライトアップは、糖尿病啓発のシンボルとして各地で定着し、青い光の輪が世界でも最多の183ヶ所に広がりました。また、10周年を記念して、世界糖尿病デー実行委員会主催のメディアセミナーも実施。日本糖尿病協会の清野理事長、日本糖尿病学会の門脇理事長、日本医師会の横倉会長、日本歯科医師会の堀会長が各団体の糖尿病対策を報告しました。



広げる

少しでも多くの方へ。糖尿病の患者さんに役立つ情報を広げていきます。

防災意識啓発ミニチラシ

4月に発生した熊本地震では、日本糖尿病協会は災害対策本部を立ち上げ、日本糖尿病学会や熊本大学と連携して、被災した糖尿病患者さんの支援にあたりました。日本糖尿病協会は災害時に備え、特にインスリン治療を行う患者さんへの注意喚起を目的に「防災意識啓発ミニチラシ」を配布しています。2016年は、新潟県で県医師会や薬剤師会の協力を得て、1189の薬局を通じて12,740枚のチラシを患者さんに配布しました。





日本糖尿病協会は、
とてもたくさんの方々の熱意と善意に
支えられています。

支える



サポーター

あなたの小さなアクションが、糖尿病をもつ子どもとアジアの患者さんを救います。ワンコイン(500円)で日本糖尿病協会の活動を応援していただく個人の賛助会員＝サポーターの輪は、おかげさまで約8,000人に広がりました。製菓企業の社員、大学で医学を学ぶ学生、身近に患者さんがいるご家族など、ご自身だけでなく、周囲にもサポーターになるよう働きかけてくださる方が大勢いらっしゃいます。皆さんの思いを大切に、これからは必要としている所に適切な支援を届けさせていただきます。



医療者の入会

日本糖尿病協会の会員は、患者さんやご家族、医療者、糖尿病に関心のある市民や企業に大別されます。1961年の設立以来、会員の大部分は患者さんでしたが、公益社団法人となった2013年以降、その構成に変化が起きています。患者さんに質の高い医療を提供することを目指して、公益性の高い療養支援の資料の開発と普及に重点を置いた結果、医師・医療スタッフの入会が増え、2016年は、患者さんと医療者の割合は1:1になりました。患者さんと医療者が手を携えて日本の糖尿病対策にあたる、という日本糖尿病協会の理想形が完成しつつあります。



企業委員会

日本糖尿病協会は、個人、団体、企業など様々な皆様のご支援のもとに活動しています。中でも糖尿病関連の医薬品、医療機器、食品企業には、イベントの共催や療養資材作成への協賛、協会活動の周知への協力など、多大なお力添えをいただいています。日本糖尿病協会には、こうした企業約40社が参加する「企業委員会」があります。民間企業のパワーにより、日本糖尿病協会の活動は、より広範囲でアクティブなものになっています。



小児糖尿病サマーキャンプ

毎年夏、1型糖尿病の子どもたちは、海や山で開催される日本糖尿病協会主催の小児糖尿病サマーキャンプに参加します。キャンプでは、非日常の様々な体験を通じて自分の血糖値の変動を知り、正しい自己管理の方法を学ぶとともに、新しい治療の知識も吸収します。そして、同じ病気を持つ友達や先輩とキャンプ中にじっくりと話をすることで、ともにがんばる仲間を見つけます。2016年は、5,075人のボランティアスタッフに支えられて、50ヶ所のキャンプで、1,194人の患児が楽しい思い出を作りました。この活動には、日本歯科医師会と日本財団による社会貢献活動「TOOTH FAIRY」から多大なご支援をいただきました。



糖尿病啓発フェスタ

従来の講演会形式のシンポジウムに代えて、より多くの市民に糖尿病のことを知っていただくため、大型商業施設を利用しての啓発イベント「糖尿病啓発フェスタ」を開催。買い物客をターゲットに、専門医のトークショーや〇×クイズを実施しました。柔らかな雰囲気が受け入れられ、買い物途中の家族連れや若者など、約600人が足を止めて聞き入ってくれました。



インスリンメンター

成長する過程で様々な悩み面に直面する1型糖尿病の子どもたちにとって、同じ経験をした先輩の言葉は心に大きく響きます。日本糖尿病協会は小児糖尿病キャンプのOBOGを対象に、自分の経験を伝えることを仕事とするインスリンメンターを育成。2016年は11ヶ所のキャンプに派遣しました。患者さん自身の体験に基づく言葉は、患児の行動変容のきっかけになると好評です。2017年には、高齢でインスリン治療を行う患者さんを支援するシニアメンターも活動を始める予定です。



調査研究

日本糖尿病協会は、糖尿病の予防・治療・患者教育に関するアンケート調査や、診療に係る臨床研究を行い、国民の健康増進に寄与しています。現在は、糖尿病治療薬の有効性に関する市販後調査4本を実施しており、そのうちのひとつ「65歳以上の高齢者2型糖尿病におけるシタグリブチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験」の論文が、海外の権威ある学術誌「Diabetes, Obesity and Metabolism」に掲載されました。

糖尿病療養指導カードシステム

日本糖尿病協会が開発した新しい発想による糖尿病療養指導のツールです。糖尿病治療のトピックを79に分類したカードとそれに対応する指導箋リーフレットを使い、患者さんの治療内容や理解度に応じてカードを自由自在に組み合わせることで指導計画が作れます。指導の進み具合を医療チームで共有でき、指導の均てん化を図ることも可能です。また、指導カードの選択と指導箋の説明を通じて、医療者の指導スキル向上の目指すことができます。2016年は、この一石三鳥のカードシステムを学ぶ講習会を11回開催。約800人の医療者が参加しました。



育てる

様々な場所で
糖尿病への理解を
育てています。

「糖尿病とおいしく生きようプロジェクトいきいきライフクッキング」

糖尿病になると食事の楽しみを奪われる、と悲観する患者さんが多くおられます。日本糖尿病協会は、敬遠されがちな糖尿病の食事療法のイメージを覆し、適切な量と食べ方に配慮すれば美味しい食事が楽しめることを伝えるため、糖尿病の勉強と調理実習を合わせた料理教室を初めて開催しました。MSD(株)、(株)ホームメイドクッキングとの共催で、全国29会場に患者さん462人が参加。レシピコンテストで学生が考案した糖尿病食のメニューを調理して、その美味しさに驚く人が続出しました。



報せる

糖尿病の患者さんに、糖尿病をご存じない方へ、もっと報せたいことがあります。

JADEC Award for Excellent Diabetes Educator

日本糖尿病協会は、糖尿病医療の要諦は患者教育にあるとの観点から、療養支援に携わる皆さんをたいへん重要な存在としてとらえています。これを踏まえ、2016年には、日本の糖尿病療養指導の発展に多大な貢献をされた医療スタッフを職種ごとに表彰する新しい賞「JADEC Award for Excellent Diabetes Educator」(療養指導士賞)を創設し、日本糖尿病療養指導学会集会での表彰式で栄誉を称えました。アメリカ式の華やかなセレモニーは、受賞者・観覧者双方にたいへん好評でした。



全国糖尿病週間

世界糖尿病デーの11月14日を含む1週間は全国糖尿病週間として、北海道から沖縄まで日本全国を結んで糖尿病の疾患啓発行事が行われます。2016年は11月14日(月)から20日(日)まで「健康長寿」をテーマに実施しました。あなたの隣人に糖尿病のことを知ってもらおう、という趣旨で講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談など、都道府県の糖尿病協会主催の行事や病院単位の取組みが行われ、約70,000人が参加しました。

「券いて学ぶ」糖尿病ウォークラリー

糖尿病治療にとって、運動療法は食事療法とともに車の両輪とされています。日本糖尿病協会とノボ ノルディスク ファーマ株式の共催で実施するウォークラリーは、歩く学ぶを同時に体験できる、楽しく役に立つイベントです。2016年は、全国44ヶ所で開催し、6,158人の患者さんや医療者が参加しました。この啓発活動の意義が評価されて、「健康寿命を延ばそうアワード 厚生労働健康局長優良賞」を受賞しました。



世界糖尿病デー啓発車両

増加する糖尿病患者の中でも特に就労世代の治療中断は、合併症発症の危険性が高まり、生活の質の低下につながります。多くの就労世代に働きかけるべく、大正富山医薬品株式の協力を得て、JR東日本の山手線で啓発電車を走らせました。世界糖尿病デーの公式ポスターをラッピングした11両編成の車両は、11月7日～19日までの期間中、多いときで19周、山手線を周回しました。清野理事長も多忙な公務をゆって、有楽町駅で啓発車両とともに糖尿病予防をPRしました。



「Team Diabetes Japan (TDJ)」

No Limit! ~糖尿病があっても何でもできる~をモットーに、走ることを通じて糖尿病の正しい知識を社会に広げることがTDJのねらいです。2016年は、タートルマソン(東京)やJALホノルルマソン(アメリカ)などの国内外の大会に、お揃いのTシャツ姿で約200人が参加しました。患者さんも、一緒に参加する医療者のサポートを得てフルマソンを完走。適切な治療を受けて自己管理をすれば、できないことは何もないことを、身をもって示しました。



ウェブサイトリニューアル、facebook

患者さんが糖尿病の情報を得る手段として、インターネットは不可欠のメディアです。日本糖尿病協会は、2016年、ウェブサイトをリニューアルして必要な情報をコンパクトにまとめて、探しやすいページに衣替えしました。また、SNS世代に向けては、公式facebookから医療者が毎日最新情報を発信し、公益法人のfacebookとしては、トップクラスの「いいね!」数を獲得しています。玉石混交の情報が渦巻くネットの海で、日本糖尿病協会は正しい情報を伝える灯台の役目を果たします。



Smile!

笑う

日本糖尿病協会では、患者さんと医療者が一緒になって糖尿病対策に取り組んでいます。活動に参加する皆さんの素敵な笑顔。この笑顔がもっと増えるように2017年もがんばります。ご支援をよろしくお願いいたします。



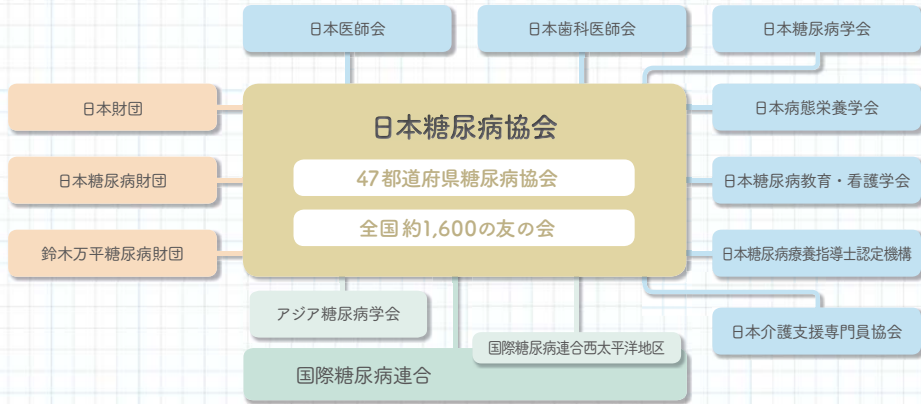
活動報告 写真で見る 2016年の活動

日本糖尿病協会では、「普及啓発」「療養支援」「調査研究」「国際交流」の4つの目標を中心に、2016年もさまざまな事業を展開いたしました。実施した事業の詳細については、次ページ以降でご報告しています。

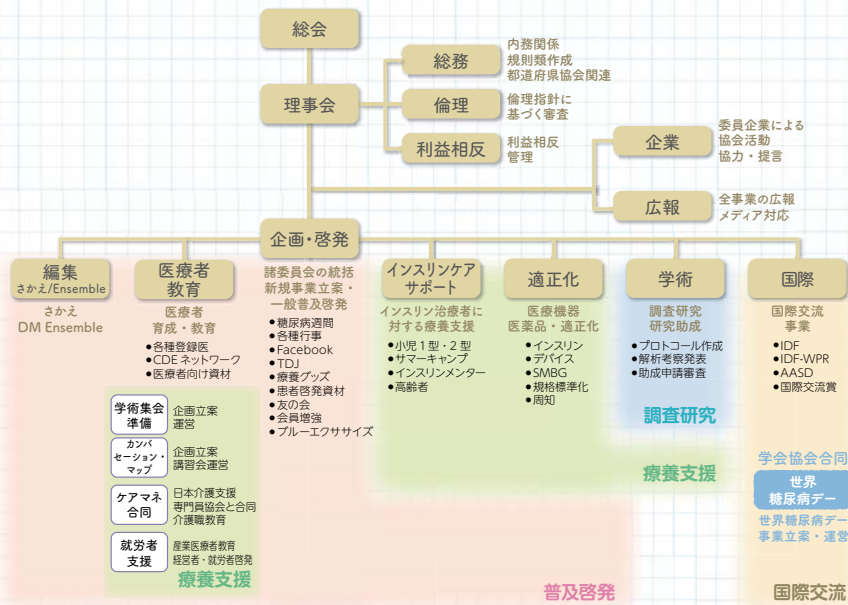


日本糖尿病協会と連携する諸団体

日本糖尿病協会は、47の都道府県糖尿病協会と連携して全国で啓発活動を展開しています。また日本糖尿病学会や日本医師会、日本歯科医師会など日本国内の主要な糖尿病関連団体と密接な関わりを持つほか、海外の諸団体とも交流・連携を行い、糖尿病の克服をめざしています。



日本糖尿病協会組織図



2016(平成28)年度 役員名簿

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	清野 裕	理事	三村 正裕	理事	内湯 安子	理事	中村 直登
業務執行理事	安西 慶三	理事	八幡 和明	理事	寺内 康夫	理事	堀田 饒
業務執行理事	大部 正代	理事	武田 純	理事	荒岡 純孝	理事	松原 謙二
業務執行理事	鈴木 裕也	理事	中村 二郎	理事	伊藤 千賀子	理事	渡邊 倫久
業務執行理事	中園 徳斗士	理事	稲垣 暢也	理事	太田 謙司	監事	長田 信也
業務執行理事	山田 祐一郎	理事	南條 輝志男	理事	遅野井 健	監事	岩本 安彦
理事	栗原 義夫	理事	武田 倬	理事	門脇 孝		
理事	佐藤 讓	理事	中村 慶子	理事	貴田岡 正史		
理事	渥美 義仁	理事	布井 清秀	理事	高橋 一征		
理事	戸所 文生	理事	平田 龍二	理事	土屋 陽子		

2016(平成28)年度 決算書

正味財産増減計算書 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
特定資産運用益	53,882
受取 助成金	157,878,781
事業 収 益	501,755,145
調査研究収益	285,062,689
受取 助成金 振替	0
受 取 寄 付 金	13,548,817
雑 収 益	16,726,013
経常収益計	975,025,327
(2) 経常費用	
管 理 費	45,048,274
事 業 費	923,060,863
経常費用計	968,109,137
評価損益等調整前当期経常増減額	6,916,190
損益評価等計	0
当期経常増減額	6,916,190

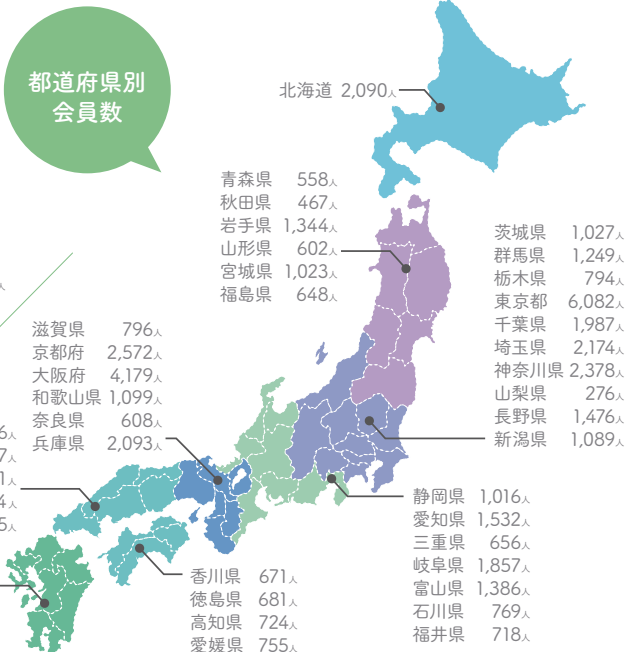
科 目	当年度
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	
	0
(2) 経常外費用計	
	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	6,916,190
一般正味財産期首残高	437,268,508
一般正味財産期末残高	444,184,698
II 指定正味財産増減の部	
受 取 助 成 金 等	0
受 取 寄 付 金	2,491,899
小児糖尿病基金	2,491,899
地域振興基金引当預金	0
国際糖尿病基金	0
調査研究収益	199,929,324
研究運用資金(寄附)	100,000
研究運用資金(受託)	199,829,324
一般正味財産への振替額	△286,297,489
当期指定正味財産増減額	△83,876,266
指定正味財産期首残高	411,241,920
指定正味財産期末残高	327,365,654
III 正味財産期末残高	771,550,352

日本全国に広がるネットワーク

都道府県糖尿病協会一覧

- 北海道**
北海道糖尿病協会
☎ 011-892-3522
栗原内科
- 東北**
青森県糖尿病協会
☎ 0172-39-5062
弘前大学大学院医学研究科
内分泌代謝内科学講座
- 秋田県糖尿病協会
☎ 018-884-6769
秋田大学大学院 医学系研究科
内分泌・代謝・老年内科学
- 岩手県糖尿病協会
☎ 019-662-1622
西松園内科医院
- 山形県糖尿病協会
☎ 023-622-7181
至誠堂総合病院 情報管理室
- 宮城県糖尿病協会
☎ 022-717-7611
東北大学加齢医学研究所プロジェクト棟5F
糖尿病代謝科
- 福島県糖尿病協会
☎ 024-925-1188
太田西ノ内病院 庶務課
- 関東甲信越**
茨城県糖尿病協会
☎ 029-353-2800
医療法人健清会
那珂記念クリニック
- 群馬県糖尿病協会
☎ 027-220-7111 (内 8121)
群馬大学医学部附属病院
内分泌糖尿病内科
- 栃木県糖尿病協会
☎ 0282-87-2150
獨協医科大学病院 内分泌代謝内科
- 東京都糖尿病協会
☎ 03-6892-2962
(月・火・木・金/9時30分~17時)
東京都糖尿病協会事務局
- 千葉県糖尿病協会
☎ 0436-62-4511
井上記念病院 栄養課
- 埼玉県糖尿病協会
☎ 048-681-0526
(金/10時~13時)
自治医科大学附属さいたま医療センター
- 神奈川県糖尿病協会
☎ 044-233-5521
川崎市立川崎病院 糖尿病内科
- 山梨県糖尿病協会
☎ 055-273-9602
山梨大学医学部 第三内科
- 長野県糖尿病協会
☎ 0263-39-7060
米沢 光夫 様方
- 新潟県糖尿病協会
☎ 025-368-9026
新潟大学医学部総合病院
血液・内分泌・代謝内科医局
- 中部**
静岡県糖尿病協会
☎ 054-247-6134
静岡県立総合病院 栄養管理室
- 愛知県糖尿病協会
☎ 0561-63-1682
愛知医科大学医学部内科学講座
糖尿病内科
- 三重県糖尿病協会
☎ 059-331-2000
JCHO 四日市津羽医療センター
- 岐阜県糖尿病協会
☎ 058-230-6378
岐阜大学病院 糖尿病代謝内科
- 富山県糖尿病協会
☎ 076-433-8843
富山赤十字病院 医療社会事業部
- 石川県糖尿病協会
☎ 0761-21-0965
早戸 武志 様方
- 福井県糖尿病協会
☎ 0776-24-2410
医療法人初生会 福井中央クリニック 内科
- 近畿**
滋賀県糖尿病協会
☎ 0749-22-6050
彦根市立病院 栄養科・栄養治療室
- 京都府糖尿病協会
☎ 070-5267-1929
京都府立医科大学附属病院
内分泌・免疫内科
- 大阪府糖尿病協会
☎ 06-6879-3731
大阪大学大学院医学系研究科
内分泌・代謝内科学
(木・金/11時~14時)
- 和歌山県糖尿病協会
☎ 073-445-9436
和歌山県立医科大学附属病院
第1内科医局
- 奈良県糖尿病協会
☎ 0743-63-5611
天理よろづ相談所病院 世話部
- 兵庫県糖尿病協会
☎ 059-382-5868
神戸大学大学院 医学研究科内科学講座
糖尿病・内分泌内科学部門
- 中国・四国**
岡山県糖尿病協会
☎ 086-235-7235
岡山大学医学部
腎・免疫・内分泌代謝内科学教室
- 広島県糖尿病協会
☎ 082-257-5198
広島大学病院 分子内科学
内分泌・糖尿病内科
- 鳥取県糖尿病協会
☎ 0859-24-1151
住吉内科眼科クリニック
- 島根県糖尿病協会
☎ 0852-24-2111
松江赤十字病院 生活指導室
- 山口県糖尿病協会
☎ 0836-22-2251
山口大学医学部 第三内科
- 香川県糖尿病協会
☎ 0875-52-3800
よねクリニック
- 徳島県糖尿病協会
☎ 088-633-7587
徳島大学先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発センター
- 高知県糖尿病協会
☎ 088-880-2343
高知大学医学部
内分泌代謝・腎臓内科学 (第二内科)
- 愛媛県糖尿病協会
☎ 080-5667-2786
愛媛大学大学院医学系研究科
糖尿病内科

- 九州**
福岡県糖尿病協会
☎ 092-631-0656
九州大学医学部 病態機能内科学
(第2内科) 糖尿病研究室
- 大分県糖尿病協会
☎ 097-586-5089
大分大学医学部 看護学科
- 佐賀県糖尿病協会
☎ 0952-34-2546
佐賀大学医学部
看護学科棟4F 5410室
- 長崎県糖尿病協会
☎ 095-819-7261
長崎大学病院
内分泌代謝内科 (第一内科)
- 熊本県糖尿病協会
☎ 096-365-5414
熊本県総合保健センター
管理棟3階
- 宮崎県糖尿病協会
☎ 0985-22-8015
平和台病院1階
- 鹿児島県糖尿病協会
☎ 098-886-6955
医療法人臨心会
- 福岡県 5,519人
大分県 919人
佐賀県 827人
長崎県 631人
熊本県 1,478人
宮崎県 831人
鹿児島県 1,373人



Pick up! 全国の活動レポート

青森

青森市から始まったWDMOブルーライトアップは八戸市、弘前市、上十三地区と広がりみせ、協会の役割・目標を積極的にPRしています。事務局は29年4月から弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座への移転も決まり、体制が強化されます。さらに、「さかえ」の情報を現場に生かしているとの医療スタッフの声などに後押しされて、今後の会員数増が期待されます。

茨城

茨城県糖尿病協会では、地域糖尿病療養指導士養成団体の設立に対する取り組みとして2012年1月より茨城県糖尿病療養指導士認定委員会を発足し、これまでに35名をCOELとして認定しました。医師・コメディカルであれば誰でも参加できるオープンな勉強会として毎年開催している指導者研修会は、研修会の翌日から役に立つ糖尿病指導のエッセンスを勉強してもらうことを目的に開催しており、今年で33回を迎えました。

石川

石川県糖尿病協会は、患者役員と医師・医療スタッフ役員が協同して、3年後2020年に会員1000人、友の会を40にすることを目標に、「会」の活性化を進めています。友の会の活動も「単独型」から「連携・地域型」など考え方を新たにする運営の探求、能登北部や県内全域での取り組みに広がっていくこと、役員の世代交代に苦勞していることを役員会で話し合っています。県内で、糖尿病の理解と重症化予防が進むよう、関係者と協力して進めています。

京都

京都府糖尿病協会は、昭和35年に全国に先駆けて、「糖尿病及びその予防、治療についての啓発並びにその助成をなし、かねて会員相互の親睦を図ることを」を目的とし、結成されました。現在、33の患者会と2,375名の会員を有し、多くの医師や医療スタッフが、京都府や京都府、京都府医師会や日本糖尿病学会をはじめとするさまざまな団体と連携しながら、先進的な取り組みを行い、糖尿病の啓発活動を行っています。

香川

香川県糖尿病協会には20の友の会と約600人の会員がいます。面積が一番小さい県ですが、5か所の二次医療圏で、1か所ずつブルーライトアップとウォーキング事業を行っています。現在やや遅れてはいますが「かがわ糖尿病療養指導士」を準備中で、先行する県の良い所を取り入れながらと思っています。会員数もこれから増えると思っていて頭張ります。

熊本

熊本県は昨年春大地震に見舞われ、医療スタッフも患者さんたちも大変な目にあったのですが、各種施設も相当な被害を受けました。熊本城関連施設が大きな被害を受けたのはもとより、動植物園の被害も甚大なため、昨年は「歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」を中止せざるをえなくなりました。しかし、美里町の元気の森かじかは無事だったため、「小児糖尿病サマーキャンプ」は1泊2日に短縮して開催し、皆で励まし合いました。

日本糖尿病協会の会員

日本糖尿病協会には、糖尿病に関心のある方ならどなたでも入会することができます。患者さんやご家族、患者さんを支援する医療者や企業の皆さんが、日本糖尿病協会という輪の中で同じ立場で活動しています。



友の会
会員

糖尿病診療を行う医療機関に設けてある「糖尿病友の会」に入会すると、会員として協会誌「糖尿病ライフさかえ」の購読と、友の会での交流活動に参加できます。友の会は、全国の約1,600の医療機関に設置されています。



本部
会員

日本糖尿病協会本部に入会し、協会誌「糖尿病ライフさかえ」を購読して、糖尿病の知識を深めることを目的とする会員です。全国どこからでも入会が可能です。若い世代や医療者が多く参加しています。



上記以外にも、日本糖尿病協会の目的に賛同して、活動をご支援いただく企業・団体や個人を対象とする賛助会員制度もあります。

2016年度 賛助会員

アークレイ マーケティング(株)	興和創薬(株)	テルモ(株)
(株)浅田鮎	(株)コスミック コーポレーション	(有)ニック
味の素(株)	サノフィ(株)	ニプロ(株)
アステラス製薬(株)	サンスター(株)	日本コカ・コーラ(株)
アストラゼネカ(株)	(株)三和化学研究所	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
(株)HプラスBライフサイエンス	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	日本ベクトン・ディッキンソン(株)
MSD(株)	第一三共(株)	日本メドトロニック(株)
大塚食品(株)	大正製薬(株)	ノボ ノルディスク ファーマ(株)
小野薬品工業(株)	大日本住友製薬(株)	(株)ファンデリー
キッセイ薬品工業(株)	(株)竹内精美堂	松谷化学工業(株)
協和発酵キリン(株)	田辺三菱製薬(株)	(株)ヤクルト本社
グラクソ・スミスクライン(株)	中外製薬(株)	ロシュDCジャパン(株)
(株)クリエイティブツアーズ	ティーベック(株)	



日本糖尿病協会は「子どもの糖尿病対策」と「アジアの糖尿病対策」を応援して下さる「サポーター」を募集しています。あなたの周りの人にサポーターのことをお伝えください。ひとりひとりの小さな支援が、大きな糖尿病対策につながります。

アジア地域での糖尿病による
足切断は極めて深刻です!

アジアの糖尿病対策 アジア糖尿病足病変プロジェクト

- 発展途上国にフットケアセンターを設置
- AASD (アジア糖尿病学会) による治療データベース構築
- 医療スタッフの教育の実施
- 2012年2月～ フットケアに関する国際シンポジウム開催



1型糖尿病の子どもの
教育と生活指導のために...

子どもの糖尿病対策 小児糖尿病サマーキャンプ

- 日本で最初のキャンプ「つばみの会」
- 1963年8月 千葉県勝山海岸で開催
7泊8日の日程で、8人の患児(6~12歳)が参加しました。
- 現在では... 全国50箇所で開催
約1200人のキャンパー(患児)と約5000人の医療スタッフ(ボランティア)が参加しています。



サポーター募集中!!

サポーター会費は500円(5年間分)

会費500円(5年間分)で、お一人様何口でもお申込みいただけます。

■ご登録に必要なもの: ①お名前 ②メールアドレス ③会費

■ご登録後の特典: ①サポーター証 ②日本糖尿病協会からの健康情報メール配信

※「友の会」正会員の各種特典(月刊「糖尿病ライフさかえ」無料購読、「DM Ensemble」購読割引)の適用はございません。また、地域糖尿病療養指導士取得の要件にある日本糖尿病協会会員にも該当いたしません。あらかじめご了承ください。

会費は、小児糖尿病サマーキャンプとアジア地域の糖尿病対策支援に役立てられます。

詳しくは、日本糖尿病協会のホームページでご案内しています。

2017(平成29)年度 日本糖尿病協会賞受賞者

日本糖尿病協会では、毎年、協会活動を通じて日本の糖尿病対策に貢献された方々を表彰しています。
2017年度の日本糖尿病協会賞受賞者は、以下のみなさまとなります。
受賞者の功績については、ホームページでご紹介いたしますので、そちらもぜひご覧ください。

アレテウス賞

日本の糖尿病対策に多大な役割を果たすとともに、日本糖尿病協会事業の推進に顕著な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者へ贈られます。



南條 輝志男氏
和歌山労災病院 病院長
(受賞理由)
糖尿病療養指導の発展への貢献

ウィリアム・カレン賞

原則50歳未満の比較的若手で日本糖尿病協会事業を積極的に推進している医療従事者に贈られます。



野見山 崇氏
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 准教授
(受賞理由)
福岡地域の糖尿病教育活動への貢献

功労賞

日本糖尿病協会事業の推進、地域組織の強化、会員増強など長年にわたり多大な功績を残した患者・医療従事者へ贈られます。



定浪 哲郎氏
香川県糖尿病協会 元会長
(受賞理由)
香川県糖尿病協会活動への貢献

立川俱子賞

日本糖尿病協会の会員として、日糖協本部または都道府県糖尿病協会において糖尿病の啓発、療養支援、友の会活動などにしなやかな力を発揮する女性に贈られます。



岡井 明美氏
国保日高総合病院 栄養科 栄養技師長
(受賞理由)
和歌山地域の糖尿病啓発活動への貢献

<パラメテス賞>該当者なし

●療養指導士賞受賞者●

看護師部門



肥後 直子氏
京都府立医科大学附属病院
副看護師長

管理栄養士部門



渡辺 啓子氏
公立学校共済組合 九州中央病院
栄養管理科 統括主査

薬剤師部門



朝倉 俊成氏
新潟薬科大学薬学部 教授

臨床検査技師部門



夏目 久美子氏
岡崎市民病院 医療技術局
臨床検査室 主幹

理学療法士部門



横地 正裕氏
医療法人三仁会事務長
三仁会あさひ病院
リハビリテーション科 科長

●小児糖尿病関連賞受賞者●

ガリクソン賞

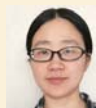
小児期発症の1型糖尿病の患者さんと、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する方、キャンパススタッフとしての貢献の著しい方に贈られます。



大熊 信雄氏
つばみの会
(関東甲信越ブロック)



藤岡 義光氏
天満病院 管理栄養士
(中国・四国ブロック)



吉岡 みゆき氏
平和台病院 看護師
(九州ブロック)

小児糖尿病功労賞

サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療等に対し、原則として10年以上貢献のあった方に贈られます。



赤井 裕輝氏
東北医科薬科大学
糖尿病代謝内科
准教授
(東北ブロック)



山口 さゆり氏
相模原中央病院
管理栄養士
(関東甲信越ブロック)



近藤 溪氏
公立那賀病院
管理栄養士
(近畿ブロック)



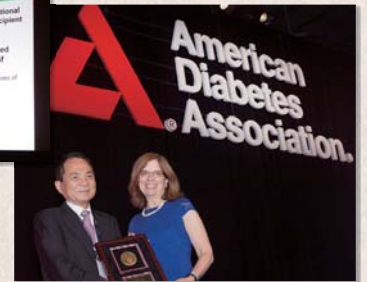
中尾 矢央子氏
上ノ町・加治屋クリニック
管理栄養士
(九州ブロック)



日本糖尿病協会 Information

1 清野 裕理事長、2016年アメリカ糖尿病学会・協会の賞を受賞

日本糖尿病協会の清野裕理事長が、American Diabetes Association (ADA) から長年に亘るインクレチンに関する研究と国内外の糖尿病対策に傑出した功績を挙げたことが評価され、「2016 Harold Rifkin Award for Distinguished International Service in the Cause of Diabetes」を受賞しました。日本人としてはもちろん、アジア地域からも初の受賞者となりました。



2 マールくん LINEスタンプに

(すい)のんだ



野菜から食べよう!



日本糖尿病協会の公式マスコットキャラクターとして誕生したマールくんが、無料通話アプリLINEのスタンプになります。(5月下旬公開予定)

糖尿病患者さんの味方のマールくんだけに、「菜のんだ」「注射した?」「野菜から食べよう!」など、患者さん同士や医療者と患者さんで楽しんで使ってもらえるフレーズが満載です。ぜひダウンロードしてください。

3 ご寄付のお願い

日本糖尿病協会は「特定公益増進法人」として認められているため、ご寄付は非課税扱いとなります。皆さまからお預かりするご寄付は、今回ご紹介いたしました様々な事業に使用させていただきます。引き続き、皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご寄付のお申込みは、事務局までお気軽にご一報いただけますと幸いです。 TEL:03-3514-1721 mail:office@nittokyo.or.jp



arkray

夢をかなえよう、共に。

夢と勇気を与えることで、1型糖尿病の子どもたちを応援している岩田選手。私たちも、岩田選手を応援しています。

岩田選手×アークレイ

IWATA PROJECT 21

詳しくは、Facebook、オフィシャルサイトまで

岩田 アークレイ 検索

アークレイ株式会社



願いをこめた新薬を、
世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

ONO 小野薬品工業株式会社

私たちは、薬物治療にとどまらず、食事療法や運動療法など、糖尿病治療全般に関わる情報提供を、積極的に行ってまいりました。今後もさらに、多角的なアプローチで、ソリューションを提供いたします。糖尿病領域における真のパートナーを目指して——これまでも、これからも、MSDはチャレンジしつづけます。

**ゴールを目指す
気持ちは一つ
糖尿病に立ち向かいます**

MSD Diabetes Solutions

MSD株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア
http://www.msd.co.jp/

2016年7月作成
JAN16AD132-0718



サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi.co.jp



© Elle Berninger / Stone / Getty Image

認知症。ずっと、もっと、自分らしく。




認知症治療は早期発見がポイントです。
認知症かな?と思ったら、

いっしょがいいね 検索

スマートフォンでもご覧いただけます



 第一三共株式会社

Novartis Pharma K.K.

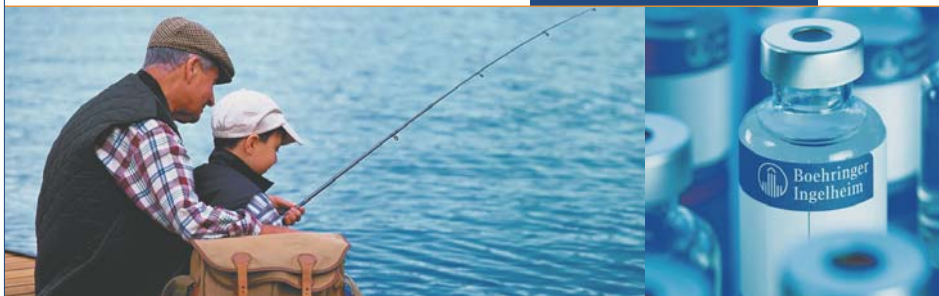
新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、新しい発想で医療に貢献することです。イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社
<http://www.novartis.co.jp/>

Value through Innovation



人々のより良い健康のために

ベーリンガーインゲルハイムは、株式を公開しない企業形態の特色を生かし、長期的な視点で、医薬品の研究開発、製造、販売を中心に事業を世界に展開している製薬企業です。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
本社 / 〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
<http://www.boehringer-ingenheim.co.jp>

 Boehringer Ingelheim

チーム ノボ ノルディスク
世界初の全員が糖尿病患者からなるスポーツチーム



より多くの糖尿病患者さんのより良い人生を実現する。

糖尿病とともに生きる人たちが、もっと自分らしく、ずっと笑顔でくらすように。私たちはこれからも、糖尿病に関わるすべての人たちを支え続けます。いつか、糖尿病を完治する治療法ができる、その日を信じて。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話 (03) 6266-1000 (代表) FAX (03) 6266-1800
www.novonordisk.co.jp

 novo nordisk®

club-dm.jp
糖尿病サイト www.club-dm.jp 糖尿病サイト 検索

糖尿病について徹底解説。血糖値+HbA1cからインスリン治療まで、関連する内容が満載!



大切なのは、 夜間低血糖に早く 気づくこと

安心して眠りたい……日本メドトロニック(株)は、SAP・CGM*を通じ、糖尿病患者様の24時間の血糖管理をサポートします。

*SAP(パーソナルCGM機能を搭載したインスリンポンプ)、CGM(持続グルコース測定)

低血糖は昼間はもちろん就寝中にも起こることがあります。とくに就寝中の夜間低血糖はご自身で気づきにくく、重症になることも。低血糖は早期に把握し迅速に対処することが大切です。

*低血糖の対処につきましてはかかりつけの医療機関へご確認ください

日本メドトロニック株式会社

ダイアビティス事業部
〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

Medtronic
Further, Together

Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

www.takeda.co.jp

武田薬品工業株式会社

公益社団法人 日本糖尿病協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 麹町セントラルビル8F
TEL:03-3514-1721 FAX:03-3514-1725

日本糖尿病協会について、詳しくはホームページをご覧ください。
「友の会」や「サポーター会員」についてもご案内しています。

<https://www.nittokyo.or.jp/>